



1 決勝戦後、激励に訪れた読売巨人軍原監督。ジャイアンツカップを手渡し、優勝したナインの栄光をたたえて今後の期待を語った。

中学硬式野球1447チームの頂点を決める大会で、見事全国優勝を成し遂げた金田中の最強トリオ。この夏、赤い旋風を巻き起こし、全国の強敵をなぎ倒して栄冠に輝いた、3人の軌跡をたどる。

1つの栄光と3つの挑戦

第5回全日本中学野球選手権大会 ジャイアンツカップ優勝



悲願の全国制覇達成

中学硬式野球主要7リーグの頂点を決める、国内唯一の大会へ全日本中学野球選手権大会ジャイアンツカップ。決勝進出チームだけに許された東京ドームの舞台上、金田中3年の福田蒼也くん、高濱祐仁くん、福島孝輔くんが、所属する飯塚ライジングスターボーイズの一員として出場した。

「決勝戦では、負けることなく考えていませんでした」と話す3人は、頂上決戦でも動じない強いハートで、最高の結果を残した。エースで4番の福田くんが持ち前の粘り強い投球と抜群のコントロールで要所を締め、7回を1失点に抑えると、大会屈指のスラッガーとして注目を浴びた3番遊撃手の高濱くんが、6回に左中間へダメ押しとなる2点タイム

リーを放つて、勝利をたぐり寄せた。チームで攻守の要だった福島くんは、2番捕手での出場。頭脳的な配球で凡打の山を築いて福田くんをリードし、バットでもタイムリーを放つなど見せ場を作った。3人の活躍が勝利を牽引し、5-1で快勝した飯塚ライジングスターボーイズ。見事1447チームの頂点に立ち、九州勢初となる全国制覇を成し遂げた。

運命の試合が3人を導く

「2人と一緒に、より高いレベルで野球がしたかった」と話したのは、3年前、野球のために佐賀県から転入した高濱くん。小6の時にプロ野球ジュニアアトリーナメントのホークスジュニアで、福田くん、福島くんと一緒にプレーしたことがきっかけとなり、引越越しを決

絆を支えるそれぞれの道

「何よりみんな野球が好き。素質があるだけでなく、練習以外で人知れずトレーニングを積んでいることが分かる。将来が楽しみ」と春山監督は笑みを浮かべる。

3人も監督の期待どおり将来の夢を抱いていた。「プロで活躍し、両親に恩返しをしたい」と福田くん。高濱くんは「千葉ロッテで活躍する兄と同じ舞台に立つて一緒にプレーしたい」と目を細める。福島くんは「甲子園で2人をライバルとして対戦し、いい試合をして勝ちたい」と胸を張った。

これまでは同じ目標に向かって努力を重ねてきた。しかし、来春からは違う場所での目標に挑むことをそれぞれが選択した。道は違っても、これまで培った絆と、今年の夏、があるかぎり、互いの存在を忘れることはないだろう。そのつながりは今後の彼らをさらに飛躍させ、幾多の壁を乗り越える支えとなるに違いない。

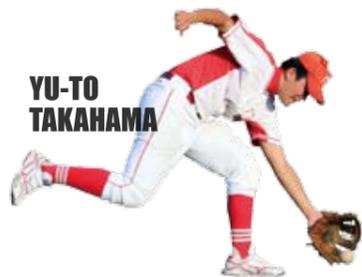
野球の強豪校や雑誌、マスコミなど、全国的に注目を集める3人。全国の頂点に立った金田中のトリオは、逸材としての期待とプレッシャーを力に変える選手たちだ。そう遠くない未来、一流の選手になった3人がテレビの中で活躍する日がくることを信じている。



SOUYA FUKUDA

福田 蒼也 エース・4番

右投げ左打ち。練習日以外も1時間、約10kmの走り込みを欠かさない。MAX120km台の速球と緩急の差をつけた七色の変化球で打者を手玉にする。好きな言葉は「感謝」。



YU-TO TAKAHAMA

高濱 祐仁 遊撃手・3番

右投げ右打ち。練習日以外もトスバッティングと素振り100本をこなす。身長181cm。通算20本塁打以上を記録し、1年生からレギュラーの長距離打者。好きな言葉は「努力」。



KOUSUKE FUKUSHIMA

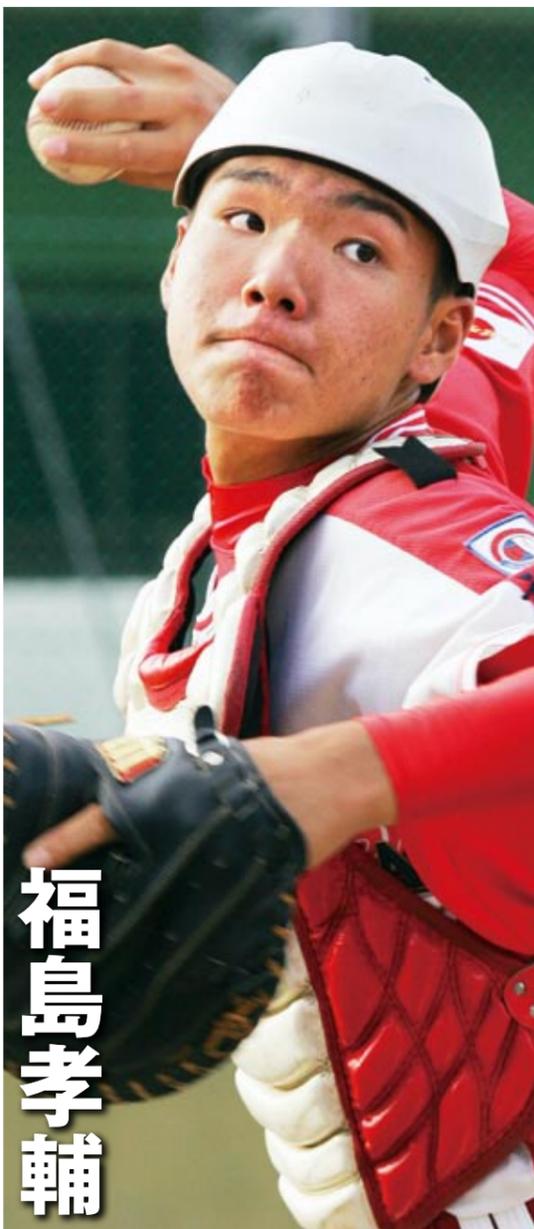
福島 孝輔 捕手・5番

右投げ左打ち。試合前には対戦相手のビデオを見て戦術を練り、勝つための努力を欠かさない。ピッチャーではMAX128km、打率も4割5分を誇る。好きな言葉は「有言実行」。

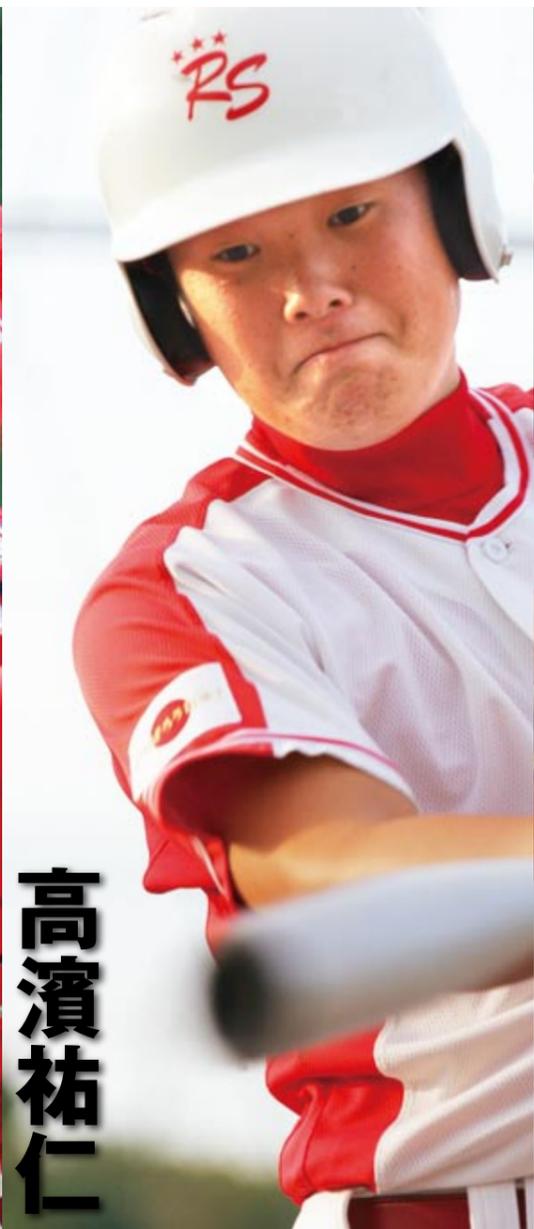
飯塚ライジングスターボーイズ

春山 総星 監督

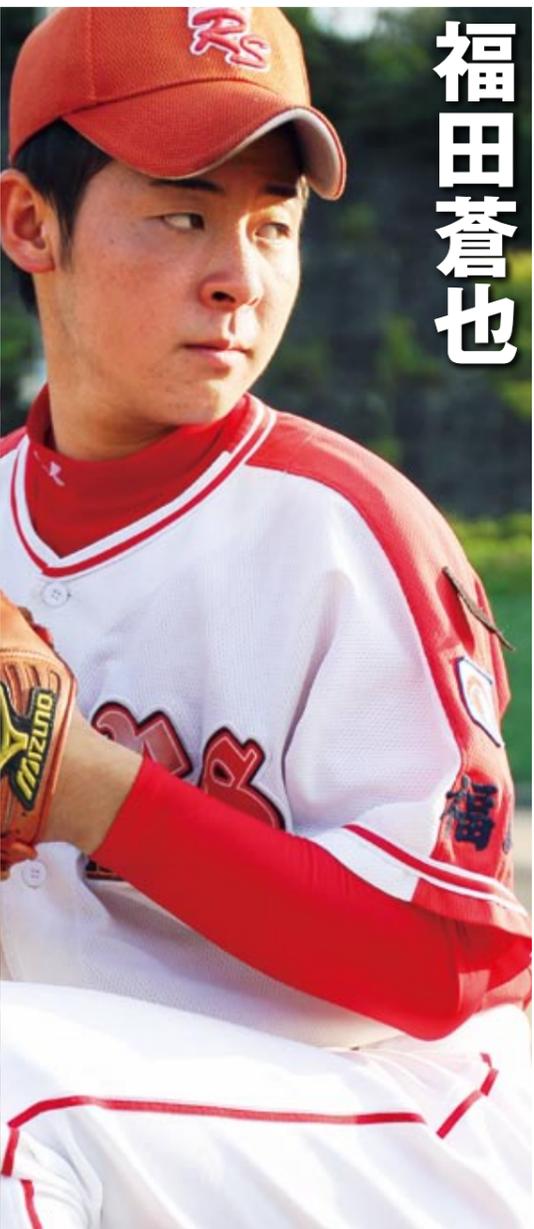
メジャーリーグ球団からコーチとしてスカウトがくるほどのノックの達人。「3人には無限の可能性がある。きっと素晴らしい選手に育ってくれる」と、期待を込めてエールを送った。



福島孝輔



高濱祐仁



福田蒼也